

【感謝】

福岡県 北九州市立洞北中学校

三年 黒川 結衣

この前水を飲んでいる時私は思った。

「このきれいな水はいつたい何人の人達が飲むことができてるんだろう。」と。

気になり私は調べることにした。

そうしたらなんと、きれいな水がでてくるのはたったの十二ヶ国だけだそう。その中でも日本は第三位だった。

私は驚いた。自分達が普段当たり前のように飲んでいる水は何百ヶ国ある中の上位に入るほどきれいな水だということ。そして、まだあと百八十四ヶ国水道水が安心して飲むことができないということ。

流石にトイレの水くらいあるだろうと思っていたが、トイレを利用できない環境で暮らしている国がたくさんあった。トイレは私生活の中でも重要な役割をしている。もしも、トイレで用を足せなかったら膀胱炎などのリスクを高め、健康を害することになる。そうしてその膀胱炎を放置すると、腎盂腎炎に進行し、命にかかわる可能性がある。

自分達が日常で簡単に使えているものが人の命を左右する力をもっていることに驚愕した。

他にも色々なことに水が使われている。

例えば、炊事・洗濯・風呂などの日常生活で使われるほか、農業・工業・水力発電など幅広い分野の産業で使われており私たちの暮らしを支えている。

つまり水がない世界は考えられない。

蛇口をひねっても水が出ない、レバーを回しても水が流れない、水が自由に使えない日常を過ごしている人々が世界中にまだ多くいる。

私が小学生の頃、北九州市の上下水道局によるカンボジアへの支援につい

て聞いたことがある。

一九七〇年代から続いた内戦の間、カンボジアのインフラは破壊された。その影響で上下水道が整備されていない地域が多く、人材も不足していた。そこで日本は、水道インフラの再建をスタートさせた。

そして、一九九九年北九州市上下水道局がプノンペン水道会社に対して、技術支援を始めた。

そして、二十四時間の給水と低い漏水率、直接飲める安全な水質、安定的な料金体制を実現させた。

一九九三年には二十五パーセントだったプノンペンの水道普及率は現在では九〇パーセントを超え、料金を徴収できなかった無収水率も九〇年代の七〇パーセントから六パーセントと激減した。

その成功は、「プノンペンの奇跡」と呼ばれ、聞いたことのある人もたくさんいるだろう。

プロジェクトは今も支援を継続しているそうだ。

安定した水道の維持管理に必要なのは、技術だけでなく、経営管理の能力も重要な事だそうだ。

長い年月をかけて、安心して水が使える人々が増えている。

今、私が簡単にとくに何も考えずに使う水。

多くの人の力、気の遠くなるような年月があつて使えていることに感謝をしたい。

水が無駄にしない、粗末にしない。

このことを私も周りの人にも伝えていくことができると思う。